

BASE Vol.120

実践的基礎知識 育てる投資編(1)

＜育てる投資とは～資産を成長させることを目的とした投資～＞

2020/07/09

育てる投資とは～資産を成長させることを目的とした投資～

ピクテでは金融資産全体を5分割し、「預金を含めた全体設計」を検討することが重要だと考えています。このシリーズでは預金を含めた全体設計のうちの「育てる投資」の考え方とアプローチについてご説明します。

預金を含めた資産運用設計

「預金を含めた資産の全体設計」を考える際には、図表1のイメージ図のように、金融資産全体を「預貯金でなければならない資金」、「欲張らない投資」、「ちょっと欲張った投資」、「育てる投資」、「スパイス投資」の5つに分割して検討することが重要です。

「預貯金でなければならない資金」とは、日常の生活費や近い将来に使う予定のあるお金等、使いたいときにすぐに使えるようにしておく資金のことをいいます。

「欲張らない投資」とは、あくまでも物価上昇から「資産」を守ることを目的とした、預金の一步先のような投資として、定期預金の満期資金や退職金、相続資金などの大きなライフイベントに伴う大切な資金を置いておく先として適しています。

「ちょっと欲張った投資」とは、「欲張らない投資」からもう一步だけ踏み出し、資産を守るだけでなく、増やすことも念頭においた投資です。

「育てる投資」とは、10年以上は投資できる余裕資金で行うじっくりと資産を増やしていくタイプの投資です。しっかり分散して株式に長期投資を行い、資産の成長のエンジン役を担います。

「スパイス投資」とは、当面使う予定がない本当の意味での余裕資金で、相応に高いリスクを取って高いリターンを目指す投資です。

図表1:預金を含めた資産運用設計イメージ図



小 ← リスク(価格変動)の大きさ → 大

(預貯金でなければならない資金)

- どんなに金利が低くても、預金に置いておくべき資金
- 2年以内に支出が想定される資金

(欲張らない投資)

- インフレ率程度の利回りで十分
- 2年以上5年以内で投資できる資金で

(ちょっと欲張った投資)

- 程よいリスクと程よいリターン
- 5年以上10年以内で投資できる資金で

(育てる投資)

- 中長期投資で資産を育てる
- 10年以上投資が出来る資金で

(スパイス投資)

- 本当の意味の余裕資金で行うべき投資
- 売買タイミングが重要
- 15年以上の投資が出来る資金で

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

※当資料内で使用するMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

実践的基礎知識 育てる投資編(1)

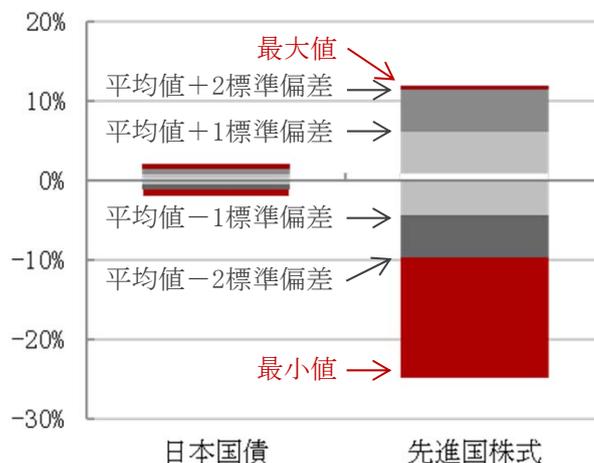
＜育てる投資とは～資産を成長させることを目的とした投資～＞

「育てる投資」と価格変動リスク

「育てる投資」は「欲張らない投資」と比べて短期的な価格変動リスクも大きくなります。価格変動リスクが大きいということは、良いときと悪いときの差が大きいということです。価格変動リスクの大きさの具体的な例として、日本国債と先進国株式の月次収益率のバラツキの差をみてみましょう(図表2)。

日本国債と先進国株式ではデータのバラツキの範囲(価格変動リスク)が大きく異なります。両者の標準偏差には大きな差があり、平均±1標準偏差が示す範囲でも、最大値・最小値の差が示す範囲でも大きな差があります。それぞれの収益率の散らばっている範囲を棒グラフで示していますが、それぞれの範囲内のどこかの収益率になるとい場合、先進国株式の場合には良いときと悪いときの差が日本国債と比べて大きくなるのが分かります。

図表2:日本国債と先進国株式の月次収益率のバラツキの差



	日本国債	先進国株式
最大値	2.0%	11.9%
平均+2標準偏差	1.4%	11.3%
平均+1標準偏差	0.8%	6.1%
平均値	0.1%	0.8%
平均-1標準偏差	-0.5%	-4.4%
平均-2標準偏差	-1.1%	-9.7%
最小値	-2.1%	-24.8%

全数値の	全数値の	全数値の
68.3%	95.4%	100%

円ベース、月次、期間:2003年3月～2020年5月
 日本国債:FTSE日本国債指数、先進国株式:MSCIワールド指数
 出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成